

INFORMATION FROM POPOLA KASUKABE

POPOLA ぽぽらだより

TAKE FREE
ご自由にお取りください

まちのことを、はじめる場所。

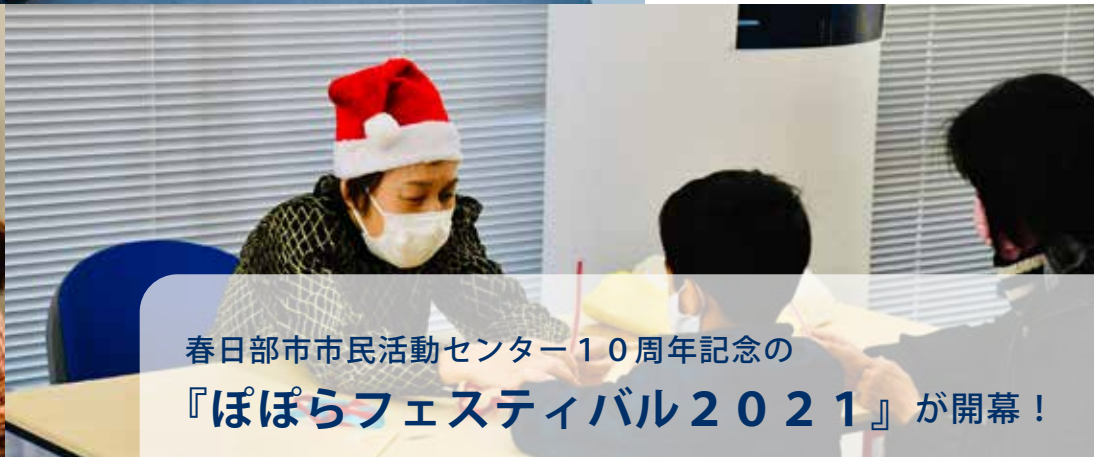
「ぽぽらだより」は、春日部市市民活動センター（ぽぽら春日部）が発行するまちづくりや市民活動を広めるためのフリーペーパー（広報誌）です。ぽぽら春日部は、まちの課題に取り組み、市民の暮らしに新たな価値を生む公益的な活動を応援する施設です。地域のための活動をしている人、始めたい人がつながっていく場所でもあります。皆様のご利用をお待ちしています。

発行元 春日部市市民活動センター
編集協力 運営パートナー
季刊（春夏秋冬）

2021. 冬号
vol. 40



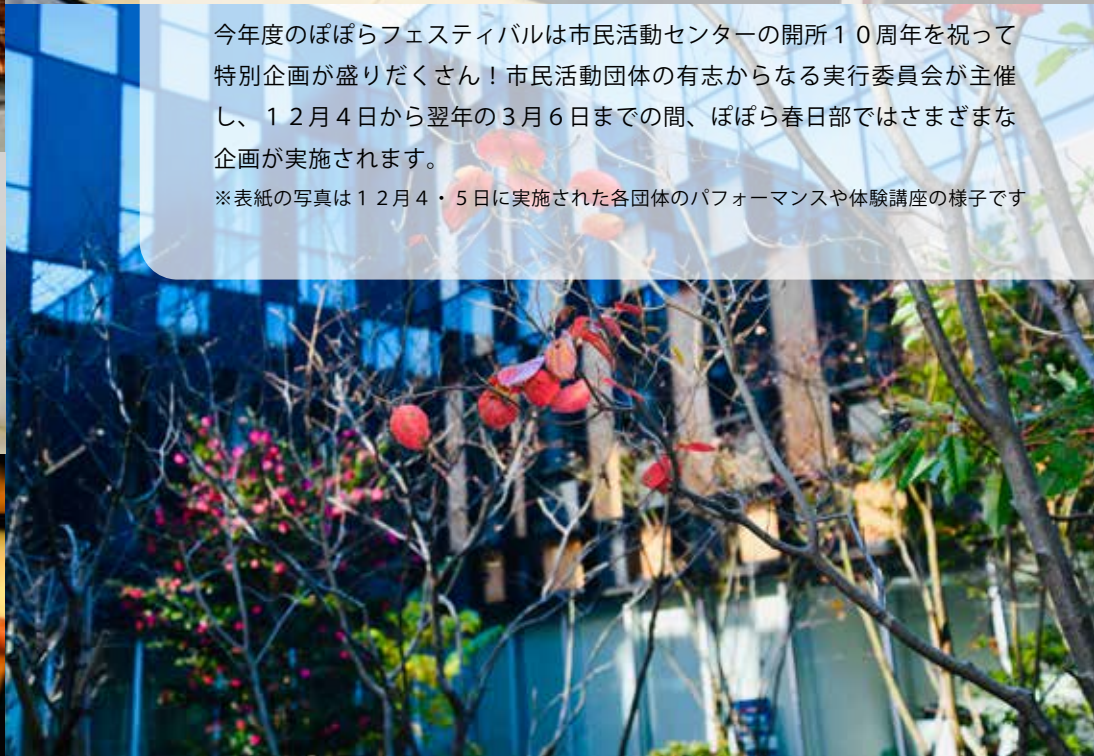
ぽ
ぽ
ら
2021



春日部市市民活動センター10周年記念の
『ぽぽらフェスティバル2021』が開幕！

今年度のぽぽらフェスティバルは市民活動センターの開所10周年を祝って特別企画が盛りだくさん！市民活動団体の有志からなる実行委員会が主催し、12月4日から翌年の3月6日までの間、ぽぽら春日部ではさまざまな企画が実施されます。

※表紙の写真は12月4・5日に実施された各団体のパフォーマンスや体験講座の様子です



シンポジウム

『これまでの10年これからの10年』



12月4・5日の2日間を皮切りに、春日部市民活動センター（ぽぽら春日部）の開所10周年を記念して「ぽぽらフェスティバル2021～市民活動でつくる持続可能な地域社会～」がスタートしました。昨年同様、感染対策の徹底とオンラインを活用したハイブリッドフェスティバルには、予想を上回る来場者がありました。

オープニングには、岩谷一弘市長も挨拶にかけつけてくださり、市民団体等の関係者や出席者に向けて「（市民活動を通じて）春日部市や（地域の）コミュニティのために活動していただいていることを本当にありがたく思っています」とのご祝辞をいただきました。その後のシンポジウムでは、パネラーとして集まっていた活動分野の異なる市民活動団体や自治会の皆さんと一緒に、それぞれの活動を通じて春日部の市民活動について考えていきました。

トークセッション1

『市民活動センター10年の軌跡とこれから』



春日部市民活動センターが開所した2011年11月から遡ること3年、市民活動センターの役割や機能、運営、設備等についての議論が行われ、2008年から2009年の9月までの市民参加のワークショップの成果は市民活動への思いとして提言書にまとめられました。

トークセッション1は、当時ワークショップの進行を務めていた三浦匡史さん（さいたまNPOセンター）のビデオ対談によるメッセージから始まりました。三浦さんは「立場や意見の異なる人が話せる場や熱量があったことで坂を登ることができた」と語り、次の「坂」を登る準備に期待を寄せられました。その後は、当時の状況を知り、かつ現在も市民活動センターを利用する市民活動団体の方々の発表を経て、参加者がそれぞれ過去や未来を起点に意見を交わす座談会に発展しました。「そもそも市民活動とは何か？」「これからの市民活動センターとは？」ということを変更して考える機会となり、まさに次の「坂」を登るための熱量のある場となりました。



【パネラー上段左から】時田美野吉さん（春日部市自治会連合会）、山本夏聖さん（しっぽとかぞく）、山口英治さん（健康クラブ）【下段左から】大滝敏さん（春日部おもちゃの病院）、吉田徳志さん（春日部まちづくり応援団）、吉田理子さん（コーディネーター） ※発表順

地域コミュニティの中心を担う自治会活動やシニアの生きがいがづくり、長く継続している活動から若者が始めた新しい活動まで、さまざまな立場から市民活動の現在と未来の話が展開されました。そしてシンポジウムの最後は、「人々が混ざりあえる市民活動センターでこそ、私たちの暮らしや政治、防災、まちづくりといった活動を地続きにつなげていくことができるし、つながることで持続可能な春日部のまちに近づけるのではないか」という言葉で締め括られ、会場からは大きな拍手が沸き起こっていました。

トークセッション2

『Z世代の若者に聞きたい！市民活動のリアルな未来』



トークセッション2は、前後半の2部構成で開催しました。前半は今年の流行語にもなった「Z世代」の若者たちだけで「自分の関心のある活動」から「ボランティア活動に感じるハードル」「若者の参加」までを思い思いに語り合う「しゃべり場」を展開。ボランティア活動を単なる社会貢献だけではなく、自身の成長機会と重ね合わせつつも、一人での参加だと感じる不安や忙しいなかでの時間的な難しさ等について吐露していた姿が印象に残りました。別室から視聴した大人たちは、オンラインで生中継される若者たちの言葉に真剣に耳を傾けていました。

後半は若者と大人が入り混じっての世代間交流会！この時だけは年齢関係なくお互いをニックネームで呼び合いました。テーブルごとに分かれて、見つけた世代間ギャップの数を競い合うゲーム（？）では大きな盛り上がりを見せていました。その後は少し真面目に、それぞれの世代からみた「市民活動」について意見を交わし、世代を超えて活動するためのヒントを模索していきました。

トークセッション3

『活動の世代交代』

～それぞれのカタチをみつかる～

講師
NPOフュージョン長池 創業者
富永一夫 さん

多くの活動団体が直面する「メンバーの高齢化」と「後継者育成」。トークセッション3では、『NPOの後継者』の著者で、自らも26歳離れた若い次世代にバトンを渡すことを成功させたNPOフュージョン長池創業者の富永一夫さんをゲスト講師に招き、ボランティア活動の世代交代から市民活動センターの役割まで、具体例を交えて縦横無尽に語っていただきました。その一部を抜粋してお伝えします。

八王子市長池公園（NPOフュージョン長池が指定管理者）で里山体験や環境保全等の活動をする「長池里山クラブ」は設立後20年以上経ち高齢化してきています。若い人が必要だと分かっている、何十年と同じ会員で活動していると面倒で若い人の人材育成の話も進みません。そこでソメイヨシノ（桜）にヒントを得て継続するためのアイデアを考えました。これは地域のお世話係を自認するNPOフュージョン長池の仕事だと判断したのです。

ソメイヨシノは50年程度しか持たないのに京都等のお寺で何百年も見事に咲き続けているのはどうしてか？と庭師に聞くと、親木がダメになる何十年も前に一番元気そうな枝木を切って後ろに挿し木しておき、ある時点で親木と子どもの木と入れ替えると教えていただいた。観光客には、ずっと同じように桜が育っていると思わせる技だそうです。その庭師の発想から、長池里山クラブの次世代スタッフのお一人に、つなぎ役（後ろに植えておく作戦）をお願いしています。

でも、これだけではクラブの存続は分かりません。そのスタッフが家庭の事情で働けなくなったら枝木が枯れちゃうわけですから。

そこで造園の世界での対応を庭師さんに再び聞いてみると、万一枯れた場合は「苗木を育てる圃場」から若い桜の木を持ってきて冬の間植え替えるそうです。そこで、里山クラブの活動とバッティングしない里山エリアで園長直属のボランティアグループを用意し「苗木のメンバーを育てています」。今の中心メンバーが活動出来なくなったら苗木のメンバーと植え替える作戦です。

メンバーチェンジをしてでも活動を「継承するのか」「しないのか」をもっと議論してもいいと思うし、継承しないからまずいということもないと思っています。草花にも一年草があって、一年間だけ、一代だけで終わることもあっていいし、そこから次の世代にまわっていくもの（多年草）があってもいい。そのところをちゃんと自分たちで相談しながらやっていくのがいいのではないのでしょうか。その相談をするときに自分たちだけで話していると「続けたいけど続けられない」と混沌としたところに行くだけです。事情も分かってちょっと冷静に聞いてくれる市民活動センターのようなところに相談すれば客観的にアドバイスをもらえるのではないのでしょうか。市民活動センターにとっても実力のある相談員の育成が必要です。



こんな意見も
「かすかべ点字サークル」では、発起人が長く代表を務めていましたが、ある時「代表の任期は2年2期まで。立候補者がいない場合は入会順に代表になる」という会則になりました。代表を退いた先輩方も会に残り活動を続けるため（新たな代表も）心強く思っています。

講師のコメント
「役員に定年あり、活動に定年なし」を全国で勤めていて、初めてモデルとなるお話を聞いた。人も団体もピンピンコロリが良いとも思っている。役員定年を会則等で明確にする工夫も必要。代表（役職）ではなくても、活動を続けられる雰囲気をつくるのが大切ですね。



まだまだ続くよ！

ぽぽらフェスティバル2021開催情報

団体活動のリレー展示 12月4日から3月6日までの約3ヶ月間、交流・ミーティングスペースにて2週間おきに約40団体の活動を紹介していきます。普段はなかなか見られないそれぞれの活動を見ると、グッと興味がわいてきますよ！

オンライン動画見本市 昨年引き続き参加団体の活動を動画でご紹介しています。団体活動だけではなく、講演等のさまざまなコンテンツを随時載せていく予定です。忘れずにチャンネル登録をしてチェックしてください！



今日から始めるSDGs講座

交流・協働

ホウコク

サステナブルな地域づくり

セミナー

11月17日(水)に春日部市自治会連合会とぼぼら春日部の協働企画によるSDGs講座を開催しました。当日は市内の自治会長十数名と市民団体の皆さんが一緒になってSDGsの基礎を学びました。

前半はSDGs・政策推進担当の市職員よりSDGsの基礎や春日部市の取り組みについての説明があり、後半は自治会活動や市民活動からSDGsを考えるワークショップを行いました。参加者からは「もう少し時間をかけて掘り下げてほしい」や「研修会を続けてほしい」といった声も上がり、今後のSDGsの推進に向けて期待の持てる内容となりました。

ぼぼら春日部では、市民団体と自治会双方のコミュニティの出会いの場を積極的につくり、持続可能な地域づくりに向けて取り組んでいきたいと考えています。



動画は作って終わりじゃない!

セミナー

ホウコク

～ YouTube で市民活動を盛り上げる～



11月20日(土)と25日(木)の2日間にわたって「ぼぼらフェスティバル2021」の「オンライン見本市」に参加する団体を対象に、自分たちで作った活動紹介動画を多くの人に見てもらい、市民活動として共感を得る方法を学びました。

講師は、S-net サポーターズ代表であり、「ぼぼらフェスティバル2021」実行委員会の委員長でもある吉田理子さん。前半はYouTubeチャンネルへのアクセス方法、チャンネル登録や高評価ボタンの押し方、さらには自分たちの動画がどんな人たちに観られているかがわかるアクセス分析の基礎までを学びました。

後半は「ぼぼらフェスティバル2021」のYouTubeチャンネルへのアクセスを増やすためのキーワードを考えました。行きつくところは、そもそも「ぼぼらってなに?」という根源的な問い。しかしそれをみんなで考えることが市民活動だと実感させられました。



モヤモヤカフェを再開!

交流

ホウコク

魅力的な活動アイデアを持った人をご紹介します!

座談会

緊急事態宣言を受けてしばらく延期となっていた「モヤモヤカフェ」を、11月27日(土)に再開しました。春日部市にはいろいろな活動を始めようとしている魅力的な方々がたくさんいます。モヤモヤカフェはそんな方々との友達の縁やその場で居合わせた偶然のつながりを大切に、月に1回程度開催しています。参加ご希望の方は事務局までお問い合わせください。



過去の参加ゲストが紹介されています。ご覧になってみてください!

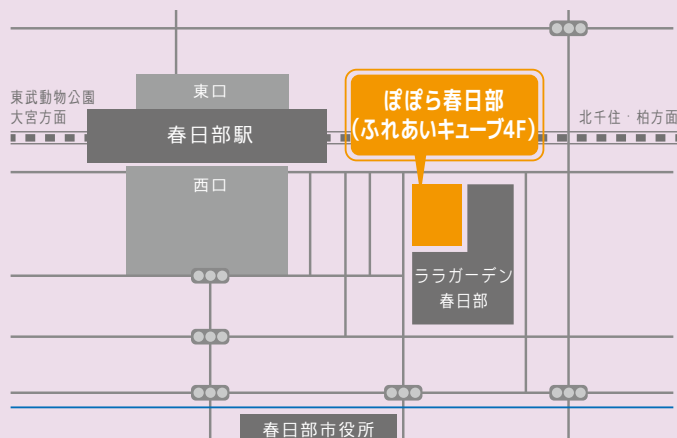


新規登録団体情報

オシラセ

新規に登録された団体さんをご紹介します。センターにはたくさんの市民活動団体が登録されています。団体同士の交流やマッチングを希望される方はいつでもセンター窓口にお問い合わせください。

- ボランティアキャラバン オクト ● ACA 粕壁グループ
- アンニョンハシムニカ? ● 大日本茶道学会春日部支部
- ねこやなぎの会 ● 春日部市ふれあい大学第38期会
- ライオンズクラブかすかべ藤支部 ● ノリノリ HAPPY TIME'S (順不同)



※東武スカイツリーライン/アーバンパークライン「春日部駅」下車。西口徒歩5分。
※駐車場(有料)は数に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。

イベント・セミナーのお申し込み・お問い合わせはこちらから

048-731-3550

popola@kasukabehall.jp

春日部市市民活動センター (ぼぼら春日部)

年中無休(年末年始を除く) 9:00 ~ 21:30

TEL 048-731-3550 FAX 048-734-1605

〒344-8578 埼玉県春日部市南1-1-7 ふれあいキューブ4階

HP



※当施設の会議室を利用するには、「団体登録」が必要となります。登録には窓口でのヒアリング及び登録申請書、団体の規約、名簿、活動実績等の資料の提出が必要となります。詳しくは上記窓口にお問い合わせください。

※交流・ミーティングスペース、キッズスペースなどは、団体登録なしにどなたでも自由にご利用いただけます。

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から一部利用を制限している場合があります。